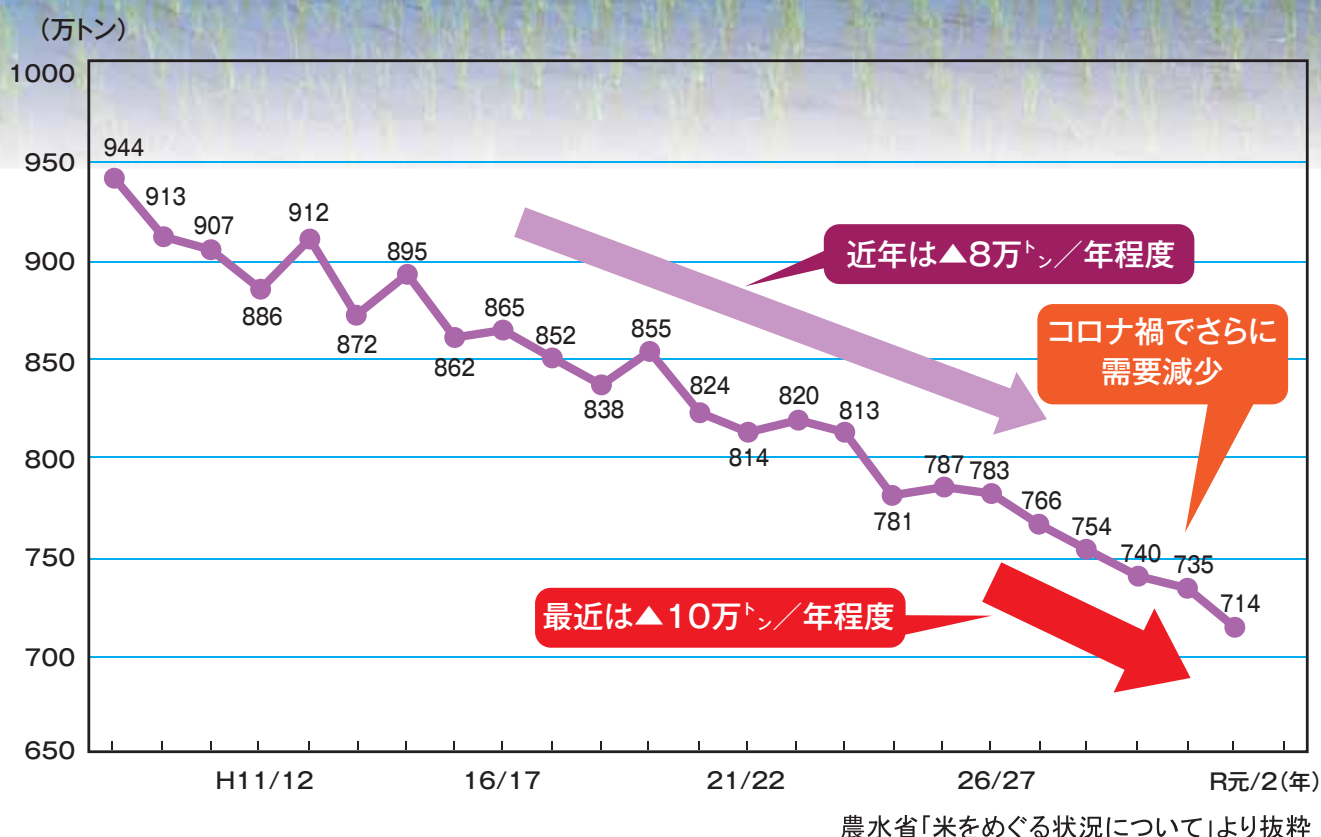


栃木県水田農業レポート

(令和3年3月号)

栃木県水田農業レポートは、農業者の皆さまが需要に応じた生産・販売を進めていく上で、農業経営の改善や作付計画の判断に役立てていただくため、米に関する需給動向や価格動向等の情報をお知らせしています。

1. 全国の需要動向



主食用米の全国ベースの需要量は一貫して減少傾向にあります。

また、コロナ禍による需要減少が著しく、全国の需要見通し等を勘案した本県の令和3年産主食用米の作付参考値は、51,041haとなり、令和2年産主食用米の作付実績に比べて過去最大規模の3,859haを削減する必要があります。飼料用米等の非主食用米や麦・大豆、露地野菜等に作付を転換し、主食用米の需給改善と経営の安定を図りましょう！

2. 販売状況

【令和2年産米の契約・販売状況】（令和2年11月現在）

（単位：千玄米トン）

	作況 指数	集荷 数量	契約 数量	契約比率 ②/①	販売 数量	販売比率 ③/①	参考：前年同月比 (元年産の同時期との比較)		
		①	②		③		集荷 数量	契約 数量	販売 数量
栃木	101	131.8	77.9	59.1 %	9.5	7.2 %	105 %	95 %	50 %
	コシヒカリ	94.9	62.7	66.0 %	5.8	6.1 %	102 %	93 %	41 %
	あさひの夢	11.4	4.3	33.7 %	1.2	10.5 %	129 %	109 %	143 %
	とちぎの星	16.4	6.9	42.0 %	0.8	4.8 %	124 %	126 %	39 %
全国	99	2,645	1,999	75.5 %	567	21.4 %	102 %	99 %	87 %

3. 在庫状況

【全国段階の民間在庫の推移(うるち米)】

（単位：万玄米トン）

	当年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	翌年 1月	2月	3月	4月	5月	6月
29/30年	108	88	155	283	315	311	288	263	234	201	167	134
対前年差	▲6	▲5	▲22	▲30	▲22	▲18	▲18	▲18	▲13	▲11	▲10	▲6
29 年 産 米	1	15	104	241	282	287	270	249	223	192	160	129
1 年 古 米 (28 年 産)	103	71	48	38	29	20	14	11	8	6	5	4
30/元年	102	87	151	288	305	301	282	258	227	192	161	131
対前年差	▲6	▲1	▲4	+5	▲10	▲10	▲6	▲5	▲7	▲9	▲5	▲3
30 年 産 米	1	18	103	248	273	277	263	244	216	184	155	126
1 年 古 米 (29 年 産)	97	67	45	37	28	20	16	12	9	7	5	4
元/2 年	99	79	161	294	315	318	295	266	233	204	178	154
対前年差	▲3	▲9	+10	+6	+10	+17	+14	+7	+6	+11	+16	+23
元 年 産 米	0	10	115	255	283	294	276	250	221	193	169	146
1 年 古 米 (30 年 産)	95	66	43	34	25	16	12	9	7	5	4	3
2/3 年	119	101	190	325	345	344						
対前年差	+20	+21	+29	+31	+30	+26						
2 年 産 米	0	12	123	267	297	307						
1 年 古 米 (元 年 産)	112	84	61	51	40	30						

前年より26万トン
も在庫が積み上
がっています。

※出荷団体(年間玄米仕入数量が5,000トン以上)、出荷業者(年間玄米仕入量が500トン以上)、および販売事業者(年間玄米仕入量が4,000トン以上)が集計対象である。

(農林水産省「米に関するマンスリーレポート(令和3年2月)」より引用)

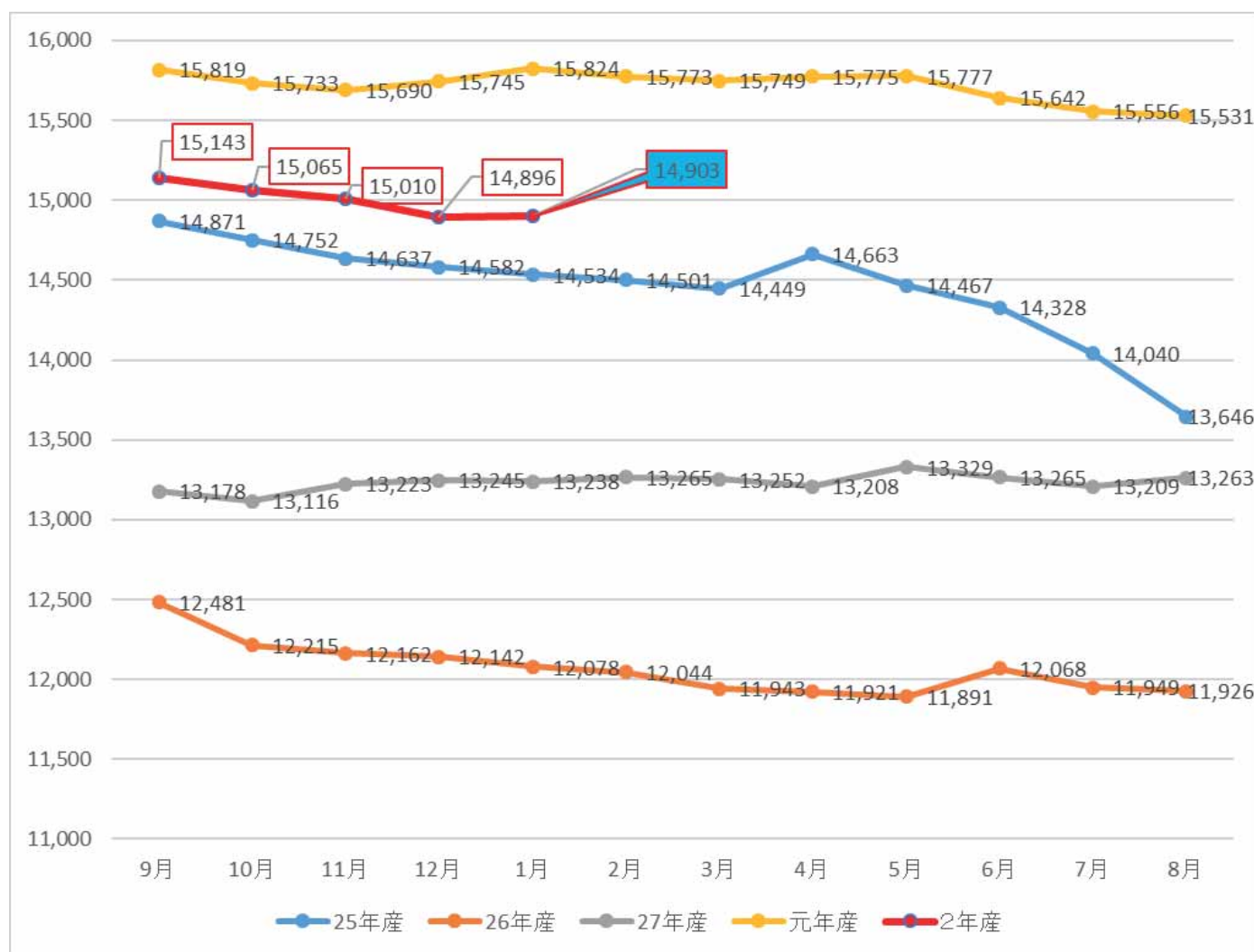
集荷数量が増加しているが、契約数量は昨年並み。しかし、実際の販売数量は昨年度よりもかなり減少しています。

今後、販売単価が下落するとの見込みから、当面の販売分のみの購入としているため、販売数量は昨年を下回っているものと思われます。この結果、在庫量は昨年よりも増加しています。

令和3年産米生産において大幅に需給が締まる見込みがなければ、米価下落は避けられません。

4. 米価の状況

相対取引価格の推移（税込） （全銘柄平均価格）



		2年産米相対取引月別平均価格					
		9月	10月	11月	12月	(参考)前年同月比	
栃木	コシヒカリ	14,647	14,556	14,809	14,433	15,649	92.2 %
	あさひの夢	11,945	11,866	12,600	12,642	14,687	86.0 %
	とちぎの星	11,984	13,509	13,865	13,704	15,110	90.7 %
全国		15,143	15,065	15,010	14,896	15,745	94.6 %

2年産米の米価は元年産に比べて、大幅に下落しています。

本県産コシヒカリの場合、2年12月の平均価格は前年同月比▲7.8%、あさひの夢では▲14%となっています。

今後、令和3年産米の生産量が見通せた時点で、在庫が積みあがる見込みとなれば、米価はさらに下落することが想定されます。

水田を活用した飼料作物の生産拡大について

コロナ禍により乾牧草の輸入が不安定になっています。栃木県では水田を活用した飼料作物の生産を行う組織に対し、生産販売の指導や品質向上に向けた技術支援等をしてます。

《高品質な稲WCS・トウモロコシサイレージ生産に取り組むモデル組織》

組織名	地域	取組内容	取組面積
A	芳賀	稲WCSの生産販売	30ha
B	下都賀	稲WCSの生産販売	17ha
C	下都賀	稲WCSの生産販売	11.3ha
D	塩谷南那須	稲WCSの生産販売 トウモロコシサイレージの生産販売	13.4ha 2.6ha
E	上都賀	トウモロコシサイレージの生産販売 稲WCSの収穫作業受託	10.6ha 53ha
F	芳賀	トウモロコシサイレージの生産販売 稲WCSの収穫作業受託	12ha 30ha

米価格の大幅な下落が予想される中、転作作物の一つとして飼料作物（WCS用稲、トウモロコシ等）の生産を検討してみませんか？

※農地を借受けて飼料作物を生産する場合は、その権利設定等の手続きをお住まいの市町農業再生協議会にご確認ください。

WCS用稲「つきはやか」、「つきあやか」、「つきすずか」は収量が採れます

「つきはやか」(早生)、「つきあやか」(中生)は令和2年に登録された品種で、畜産農家に好評の「つきすずか」(晩生)と同じ極短穂茎葉型品種です。

特徴

- 籾が少なく、茎葉が多い
- 縞葉枯病に強い
- 倒伏に強い
- 草丈が高い(約120～160cm)

縞葉枯病耐性を持った極短穂茎葉型品種に**早生・中生・晩生品種がそろったことで、様々な栽培体系が利用できるようになりました！**



つきはやか



つきあやか

お問い合わせ先：各農業振興事務所 経営普及部
畜産振興課 環境飼料担当

最寄の事務所にお問い合わせください
TEL：028-623-2350

水田での麦・大豆の本作化により 収益向上を図りましょう

麦・大豆は、水稲よりも労働時間あたりの収入額が高い作物であるとともに（図1）、各種交付金等を活用することで主食用米を上回る所得が期待できます（図2）。

麦・大豆を水田での基幹作物として経営に取り入れ（本作化）、水田をフル活用した所得の向上を図りましょう。

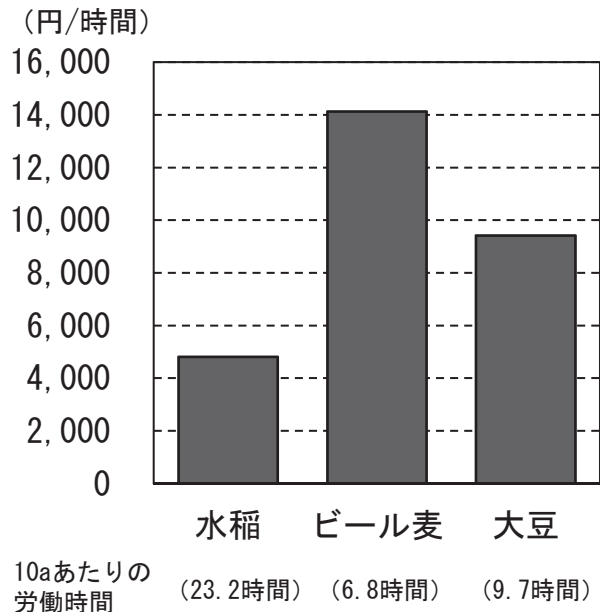


図1 労働時間1時間あたりの収入額

※ 図2の10アールあたりの収入額を基にH29県経営診断指標における労働時間により試算しました。
（経営規模：水稲10ha、ビール麦5ha、大豆5ha）

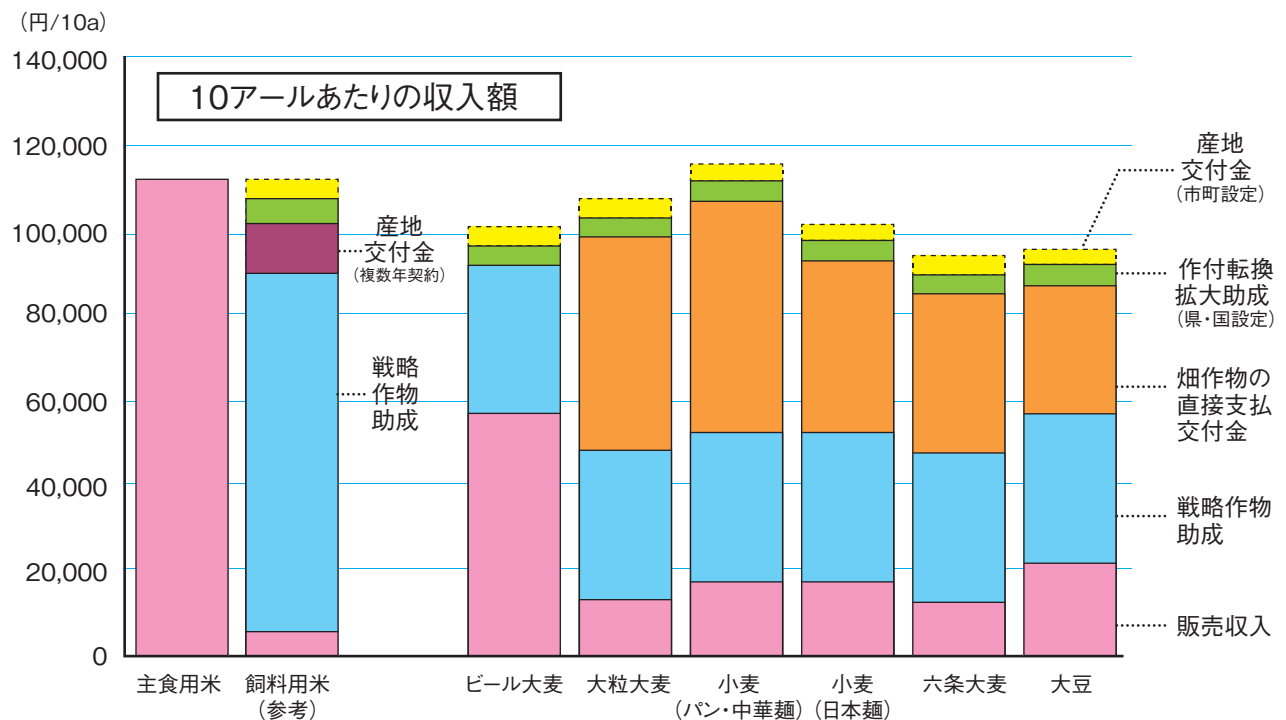


図2 水稲と比較した麦・大豆の10アールあたりの収入額

- ※ 産地交付金（市町設定）は、県内平均単価で集計しています。
（飼料用米：4,507円/10a、麦類：3,867円/10a、大豆：3,384円/10a）
- ※ 作付転換拡大助成は、主食用米から転換拡大した面積が対象となります。（令和3年産のみの支援）
- ※ 畑作物の直接支払交付金は、R2年産の1等Aランク交付単価で算出しています。
- ※ 戦略作物助成に代わりリノベーション事業に取り組んだ場合、助成額が増額となる可能性があります。

水稲主体の経営に露地野菜を加えて 所得向上を図りましょう！

水田で野菜を作るメリット

- 1 水稲と組み合わせることで、所得が多く得られる
- 2 水稲と輪作することで、連作障害を回避できる
- 3 整備された水田は機械化作業に適している

◆県内で作付の多い露地野菜

1位	ほうれんそう	624ha	2位	ねぎ	584ha
3位	とうもろこし	577ha	4位	さといも	518ha
5位	はくさい	510ha			

データ：農林水産統計（H30年度）※施設の面積も含む

◆主な品目の収益と労働力

<ねぎ（秋冬どり）>

- ・生食用、加工・業務用ともに需要が多い
- ・水稲との輪作で地力低下や土壌病害を回避
- ・水稲との作業競合が少ない
- ・機械化体系で省力化が可能
- ・収穫適期が長く、農休日の設定が可能
- ・湿害対策は必須

（50a規模10a当たり）

収益データ（収量2,200kg 単価220円/kg）
（主な労力2名 180時間）
売上 484千円
経費 190千円
所得 294千円

<さといも>

- ・水稲との輪作で地力低下や土壌病害を回避
- ・比較的湿害にも対応
- ・水稲との作業競合少ない
- ・機械化体系で省力化が可能
- ・湛水栽培で収量アップ
- ・生育期間中は比較的労力がかからない
- ・種いもでの栽培のため、全国で一気に面積拡大しない

（75a規模10a当たり）

収益データ（収量1,800kg 単価180円/kg）
（主な労力2名 83時間（機械化一貫体系））
売上 324千円
経費 169千円
所得 155千円

米の需要喚起をはかることも大切です。栃木県では、毎月「5」と「8」の日
をご飯の日と定め、ごはんを食べる運動を展開しています。
JAグループをはじめ、多くの企業・団体が応援・協賛しています。



栃木県では、コロナ禍により、米の消費がさらに減少することが懸念されるため、毎月「5(ご)」と「8(はん)」のつく日を「栃木県民ごはんの日」と定め、この日は、「1日3食ごはんを食べよう」を合い言葉に、関係団体などと連携し県を挙げて米の消費拡大運動を展開します。

〔関連事業〕

- ・「とちぎの農村めぐり」SNS・WEBサイトによるPR
お米を使用したテイクアウトメニューを提供する
店舗の紹介（2月～3月中旬）
- ・とちぎの自慢のおにぎりを食べようキャンペーン
（2月末で終了）
- ・とちぎをおうちで食べよう！おうちde米ペースキャン
ペーン（4月～7月上旬）